

1 「家庭・地域・学校協議会」の運営について

(1) 「家庭・地域・学校協議会」の構成

武生西小学校	家庭・地域・学校協議会	西地区自治振興会(1)
		武生西公民館(1)
		西地区スポーツ少年団(1)
		同窓会理事(1)
		西地区児童民生委員会(1)
		武生西幼稚園後援会(1)
		武生西小学校PTA(2)
計11名		
※地域コーディネーター(4名) 自治振興会長 西公民館長 元PTA会長 ふるさと絵本館長		

(2) 協議会の内容

- ①開催回数 3回
 ②開催日程 6月 10月 2月
 ③協議内容
- ・家庭・地域・学校協議会の趣旨説明
 - ・学校運営方針、
特色ある学校づくりの取り組みについて
 - ・学校教育活動の現状について
 - ・学校評価アンケートについて
- 各結果をもとに、学校運営について評価し教育活動、地域の連携等についての改善を図った。

(3) 協議会における成果と課題

今年度、新たに「安全マップ」づくりをはじめ、PTA・地域見守り隊・公民館や自治振興会等と連携して多くの取組を行うことで、児童のふるさとへの誇りや愛着が高まったことが成果と考えられる。一方で、あいさつについては、地域の協力を得ながら、さらに取組を充実させることが課題として共有された。

2 地域と進める体験活動

(1) 活動のねらい

児童が自ら地域の魅力を探究し、発信する活動を通して、ふるさとへの誇りや愛着をもち、心豊かでたくましい児童の育成を図る。

(2) 活動の実際

「西地区の魅力を発信しよう ～紙芝居を通して～」(第5学年)

今年度は5年生が西地区の魅力を伝える紙芝居作りに取り組んだ。自分達が住む西地区を多くの人に愛される地区にするために、西地区の魅力を紙芝居で多くの人に発信しようと計画を立てた。地域を代表する歴史的な場所を見学したり、地域の方の話を聞いたり、諸資料を活用したりして西地区に対する理解を深めた。また、絵本作家の荒木文子氏や「らくひょうしぎの会」の方を招いて紙芝居の作り方や読み方を教わった。子どもたちは8つのグループに分かれて、調べたことをもとにオリジナル紙芝居を作成した。

完成後には、低学年や西幼稚園での「読み聞かせ会」や全校児童を対象にした「紙芝居小屋」を企画し、実施した。発表を終えた後にはグループごとに改善点を話し合い、発表の回を重ねるうちに上達していった。PTA行事の学年のつどいでは保護者に発表し、かこさとしふるさと絵本館「硯」では3つの幼稚園の園児に発表した。また、地域の幼稚園にも出張読み



聞かせに行くなど様々な年代の人の人に西地区の魅力を発信することができた。

(3) 地域コーディネーターの活動概要

9月27日の「西地区の宝を聞こう会」で、西公民館館長様にお話しいただいた。魅力スポットを探検するポイントやヒントを与えてくださり、児童にとって大変有意義な学習になった。

1月18日の学年のつどい「紙芝居発表会」で、一人ずつ感想を話していただいた。自分達でアイデアを出し合いながら活動できていたこと、一人一人の西地区をもっと大切にしたいという気持ちが伝わってきたこと、よい発表だったので今後もっとたくさんの人にこれらの紙芝居を見てほしいなど、称賛の言葉をたくさんいただいた。

また、かこさとしふるさと絵本館館長様には、紙芝居制作の一連の活動に際し、多大な協力をいただいた。荒木文子氏の紹介からはじまり、「らくひょうしぎの会」の皆様のご協力による読み方講座や読み聞かせ会の斡旋、碩での発表会開催の協力や園児招待の協力等、かなり無理をお願いしたにも関わらず、いつも笑顔で協力していただいた。



(4) 特に工夫した事項

発信するための大きなイベントを2回開催した。1回目は、保護者に向けて発信できるように、PTA行事の「学年のつどい」を活用した。2回目は、地域の方々や地域の子どもたちに向けて「かこさとしふるさと絵本館 碩」で開催をした。本番の発表会を成功させるために、1、2年生や西幼稚園、出張読み聞かせや紙芝居小屋など、何度か発表する場を用意した。

外部指導者やボランティアの方には紙芝居制作や読み聞かせについての事前のアドバイスだけでなく、発表後にもアドバイスをいただき、次の発表に生かすことができた。これらのことを通じて、児童の観衆に応じた読み聞かせが上達し、主体的に活動する対応力を高めることができた。

(5) 成果と課題

1つ目の成果は、児童が西地区に住む一人の住民として、地域への愛着を高めることができたことである。自分達で調査を行ったり、魅力スポットに直接出向いて探究したりする活動を通して、これまで知らなかった地域のよさに、児童自身が気づくことができた。そして、よりたくさんの人に西地区を知ってもらいたいという気持ちが高まり、紙芝居作成へのエネルギーも高まっていった。また、これら一連の活動を通して、快く協力してくださった方々がたくさんいることも、子どもたちにとって魅力的な地域として映ったに違いない。

2つ目の成果は、表現力が向上したことである。紙芝居の内容を考える際には、グループごとにアイデアを出し合い、役割を分担し合って制作してきた。教えていただいた紙芝居だからこそできる表現を取り入れ、絵を描き、ストーリーを工夫した。また、一方的な発表ではなく、観衆を意識した口演になるように練習した。出張読み聞かせ会や紙芝居小屋など、観衆を変えた発表の場を多く取ったことで、お客さんの笑顔がまた次の意欲につながり、役になりきり、気持ちを込めて発表するなどの表現力も高まり、主体的な活動が継続されたと思う。

西地区には、自然、歴史、産業、食などたくさんの魅力がある。今年度は、西地区の歴史的な魅力を中心に取組んだが、より西地区に愛着を持たせるためには、歴史だけではなく多面的に魅力を調べていく必要がある。また、児童の取組を、昨年度は「スタンプラリー」、今年度は「紙芝居」という方法で地域に発信したが、より有効な発信の方法や、場や相手も考えていく必要がある。